編集後記

◆ 二酸化炭素などの温室効果ガスの排出削減は，地球規模での喫緊の重要課題となっており，昨年発足した新政権では1990年比で25％という大きな削減目標を掲げました．各種産業界では大きな波紋を呼び，原子力発電や自然エネルギーの利用が再検討されると共に，一部実用化されている電気モーターを用いたハイブリッド車，電気自動車などの開発と実用化が急がれています．経済産業省では，次世代自動車の割合を10年後には最大50％，20年後には70％にまで引き上げることを目指しています．これらにはリチウムイオン電池などが使用され，今後産業界でのリチウム需要は大きいと予測されます．

◆ このようにリチウム資源はハイテク産業に不可欠なレアメタルの一つであり，近年注目を集めている金属の一つです．今月号は，6月に開催される資源地質学会のシンポジウム「リチウム・トリウム−資源とその利用−」にあわせ，リチウムやレアメタルの特集を組んでいます．お忙しい中，原稿を寄稿して下さった著者の皆さんや，とりまとめをして下さった石原顧問・高木氏に御礼申し上げます．

◆ レアメタルの安定供給確保は重要で，それに向けた日本の取り組みを高木氏に解説して頂きました．

◆ 先月放映されたNHKスペシャル「自動車革命」では，電気自動車に搭載されるリチウムイオン電池の世界標準を確立した国が世界を制すると表現しており，リチウム電池の開発と実用化は日本の産業・経済にとって急務です．一方，過去に起きたようなリチウムイオン電池のリコールによる損失は甚大で，高性能且つ熱安定の高い安全な電池が期待されています．そこで，栄部氏には産総研におけるリチウム電池の開発の現状について紹介して頂きました．

◆ 西尾氏からはリチウム同位体を利用した地殻流体地球化学について，村上氏からは地球化学的な視点からのリチウム資源について，石原氏からは花崗岩の岩石学的視点から見たリチウムの挙動とペグマタイトについて，それぞれ紹介して頂きました．

◆ リチウムの最大の産地は南米のチリで，塩湖としてはチリのアタカマ湖やボリビアのウユニ湖が著名です．そのアタカマ湖のリチウム資源と地質学的な解説を小島氏が，そこでのリチウム採取の模様を金井が，また，ウユニ湖の地質学的な解説とリチウムの濃集機構について村上氏ほかが紹介しています．

◆ 地球における水の97％以上を海水が占めていますので，海水中のリチウム濃度が低くても莫大な量が存在しています．工業技術院時代から海水リチウム回収研究に係わってこられた大井氏から，この海水やかん水などからリチウムを吸着回収する技術の現状と課題について紹介して頂きました．

◆ レアメタルも近代産業には不可欠で，エネルギー基本計画素案では自給率を2030年までに50％以上という目標を掲げ，「都市鉱山」の有効活用が今後の課題となっていますが，石原・村上両氏はインジウム資源の現状と鉱床について解説して下さいました．

◆ 環境を考慮した低炭素エネルギー源には電池等の他に原子力もあります．亀井氏はこれまで原子力発電に利用されてこなかったトリウムに着目し，産業間の枠組みと協力体制を作る新たなエネルギーモデルを政策提案しています．じっくりお読み下さい．

◆ 今月は多彩な記事が満載ですが，楽しめましたでしょうか．来月も特集号の予定です．　（金井　豊）

地質ニュース編集委員会
委員長：金井　豊
事務局委員：宮内　渉
委　　員：重松紀生・杉原光彦・中嶋　健・森尻理恵・七山　太・酒井　彰・高橋裕平
連絡先：地質調査総合センター
地質ニュース編集委員会事務局
〒305-8567 茨城県つくば市東1−1−1
Tel. 029−861−3754　Fax. 029−861−3746
E-mail: g-news@m.aist.go.jp

地質ニュース　第670号　2010年　6月号
定価￥785 (本体価格￥748)　〒実費
2010年6月1日　発行
編　集　**産業技術総合研究所**
発行人　株式会社　実業公報社
代表者　林　光生
発行所　株式会社　実業公報社
東京都千代田区九段北1の7の8　〒102-0073
Tel.(03)3265−0951　Fax.(03)3265−0952
http://www.jitsugyo-koho.co.jp
E-mail: j-k@jitsugyo-koho.co.jp
振替口座　00110−6−32466
麹町局私書箱第21号

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターに常備してあります．また，最寄りの書店でも注文できます．
●地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ
ⓒ 2010 Geological Survey of Japan